

「平成19年版 パートタイマー白書」刊行にあたって

平素は弊社求人広告事業ならびに当研究所の情報サービスにご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。アイデム人と仕事研究所は、「人と企業のトータルコミュニケーション」をメインテーマに「雇用する企業」と「働く人々」の双方の立場に立脚し、人材総合企業アイデムで培ってきた独自の着眼点で事業展開をしています。その事業の一環として平成10年から刊行しているこのパートタイマー白書は19年版で10年目を迎えました。多くの企業の方々から高い関心と評価をいただいた賜物と、スタッフ一同心から感謝しております。

総務省統計局から発表された平成18年の「労働力調査」の結果を見ますと、正規雇用の従業員数は3,411万人で、これは、前年に比べ37万人の増加となっており、平成14年以降、初めての増加となりました。一方、非正規雇用者は44万人増の1,677万人であり、役員を除く雇用者の33.0%（前年より0.4ポイント増）で、こちらは増加の一途をたどっています。正社員の雇用情勢の改善は進んでいるものの、3人に1人という相変わらず高い非正規雇用者の比率が明らかになりました。このような状況下で非正規雇用者であるパート・アルバイトの雇用の状況を明らかにするため本年も労使双方にアンケートを実施し、その結果を白書としてまとめました。本年度も多くの企業のご担当者、また多くのパート・アルバイトとして就業されているの方々から多様な意見をお聞きすることができました。その意見を集計した結果がこの白書です。

アンケートには自由記入欄を設けていますが、毎年興味深い内容をお書きいただいております。本年も「応募効果を高める工夫」をはじめ、「子育てを終了した主婦の活用」、「結婚退職した主婦のスキルとライセンスを活かす」、「パートタイマーの厚生年金加入」、「離職率の引き下げ」、「定年退職者のパート雇用」、「正社員との格差意識」、「年齢に関係ない採用」、「職場の人間関係」、「職場のコミュニケーション」、などに関する企業のご担当者、パート・アルバイトとして働いている方双方からの現場感覚の高い言及を数多くいただきました。これら現場の「生の声」を、集計結果とは別に、自由意見として掲載させていただきました。パートタイマーの戦力化のためのヒントとしていただければ幸甚です。

発刊にあたりご協力いただいた関係各位に、心から感謝申し上げます。

平成19年4月
株式会社アイデム
人と仕事研究所
所長 吉野 秀一

はじめに

少子高齢化によって労働力人口が年々減ってきています。

総務省の「労働力調査」をみると、労働力人口の男女計は平成11年の6,779万人から年々減少を続け、平成16年には6,642万人と5年間で137万人も減少しています(表1参照)。平成17年からは一旦上昇に転じていますが、出世数や人口推計の統計等から勘案すると、今後も労働力人口は減少していく方向にあると思われます。

また、これを年齢階級別にみると、「25～29歳」の労働力人口は平成13年に、「30～34歳」の労働力人口は平成18年にそれぞれ減少に転じており、今後、特に若年労働力が不足してくることは想像に難くありません。不足する若年労働力をどう補っていくのかが、これからの課題となってきます。

今回のアンケートでは、直近1年間におけるパート・アルバイト募集の有無と応募状況を、パート・アルバイトを雇用している企業に聞いています。それによると、募集を行った事業所は75.8%と全体の4分の3で、さらにその事業所に応募状況を聞いたところ、「期待以上の応募がある」9.2%、「期待通りの応募がある」27.5%、「期待したほどの応募はない」55.4%、「応募はほとんどない」6.6%という結果となりました。募集しても応募が少ないとの回答が6割を占めていることから、パート・アルバイトの採用に苦戦している状況が窺えます(図1参照)。

また、弊社の新聞折込求人紙『しごと情報アイデム』紙面におけるパート・アルバイトの募集件数(毎月第1週、3週の紙面データより集計)を見てみると、平成18年は371,590件で、前年同期(339,784件)に比べ9.4%増加しています(図2参照)。平成16年は35.7%増、平成17年は30.1%増と3年間続けて増加しており、企業のパート・アルバイトの採用意欲は旺盛です。労働力人口というパイが減少している一方で募集件数は増加しており、現在パート・アルバイトの採用が困難な売り手市場になっているのです。

そこで今回の白書では、戦力化を図る手前の「パート・アルバイトの人材を確保する」という視点から、企業とパート・アルバイトの双方に対してアンケートを実施しました。その回答を比較し、意識のズレなどを明らかにするねらいから、双方の回答を並記しています。さらにアンケートで寄せられた多数の企業担当者やパート・アルバイトの声を盛り込んで構成しています。

『平成19年版パートタイマー白書』から、採用難時代におけるパート・アルバイトの人材確保へのヒントをつかんでいただければ幸いです。

人と仕事研究所
主任研究員 小杉 雅和

表1 年齢階級別労働力人口の推移

性・年齢	平成11年 (1999年)	平成12年 (2000年)	平成13年 (2001年)	平成14年 (2002年)	平成15年 (2003年)	平成16年 (2004年)	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)
計	6,779	6,766	6,752	6,689	6,666	6,642	6,650	6,657
男女計								
15～19歳	136	132	131	125	118	111	108	106
20～24歳	652	629	600	571	552	533	526	518
25～29歳	818	827	826	792	771	745	721	704
30～34歳	668	681	719	746	760	776	782	775
35～39歳	629	643	644	652	674	687	700	733
40～44歳	663	653	649	653	658	660	676	676
45～49歳	812	764	728	697	676	668	662	657
50～54歳	803	853	901	879	830	774	730	702
55～59歳	674	666	632	646	689	727	776	819
60～64歳	431	426	430	442	451	470	465	446
65歳以上	493	493	492	487	489	490	504	521

(万人)

資料出所：総務省「労働力調査」

図1 直近1年間におけるパート・アルバイト募集の有無と応募状況

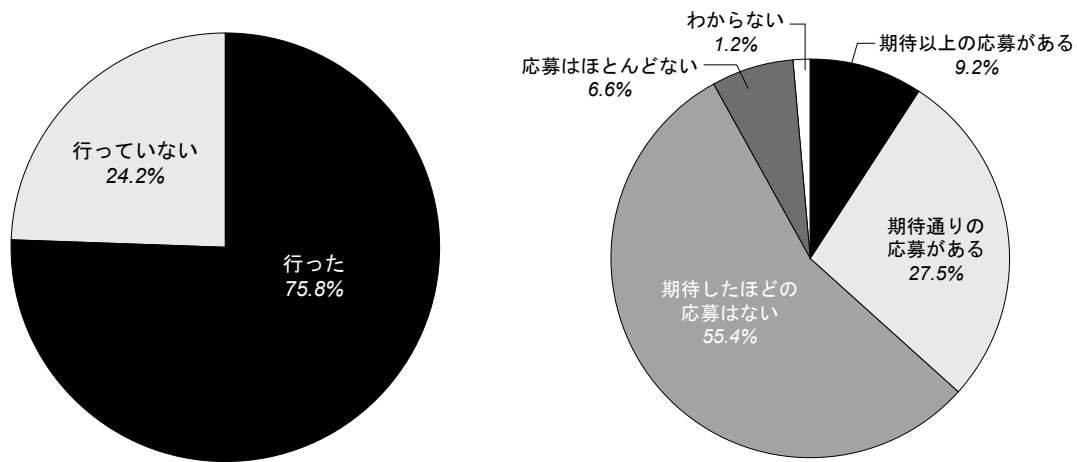


図2 パート・アルバイト募集件数対前年比

